

日独交流150周年を 記念してグリムの森に 菩提樹を植樹



3月28日(水)、グリムの森において、日本とドイツの交流150周年を記念し、ドイツ大使館、とちぎ日独協会、下野市国際交流協会の協力のもと、ドイツから寄贈された菩提樹の記念植樹を行いました。

また、3月27日から4月1日まで下野市内に姉妹都市中学生交流事業でホームステイしているドイツ中学生と、昨年ドイツを訪れた中学生訪問団の代表がグリム童話200周年記念として西洋ハシバミを植樹しました。

道の駅しもつけが オープン1周年を 迎えました

道の駅しもつけが平成23年3月26日にオープンして1周年を迎えました。

3月24日(土)から28日(水)まで行われた様々な記念イベントでは多くの来客者でにぎわいました。

3月25日(日)には交流都市の香川県高松市(旧国分寺町)の讃岐国分寺太鼓保存会による大太鼓の演奏と讃岐うどんの実演販売も併せて行われました。



百歳 おめでとございませう



松沼カネさん(明治45年3月生、柴在住)が百歳を迎えられ、市から祝詞とお祝い品を贈呈しました。

近所に住む娘さんとおしゃべりをしたり、編み物をして元気に過ごしています。

また、お嫁さんにも作ってもらったおかゆと、ご自分で作った野菜たっぷりですぐ具だくさんの味噌汁を毎日食べています。自分のことは自分でが信条であり、長生きの秘訣のようです。

いつまでもお元気でお過ごしください。

福島県飯館村松川第一仮設住宅 飯館自治会役員がサロン見学

東日本大震災による原発被害を受け、今も多くの村民が避難されている飯館村の松川第一仮設住宅飯館自治会役員の方々が、3月22日(木)に市の「地域ふれあいサロンぽっぽ」を訪れ、交流を行いました。

自治会は、長期にわたる避難生活で、多くの高齢者が生きがいをなくさず生活していくために様々な取り組みを検討しており、そのひとつとして下野市のふれあいサロンを見学

したものです。

ふれあいサロンの利用者からは、村内の様子や高齢者が暮らす仮設住宅の生活状態などについて質問があり、また、ふれあいサロンが高齢者の生きがいづくりの一助となっていると話しました。

運営主体の下野市を元気にする会の鈴木会長をはじめボランティアの方々、歌や体操等を行って、会場全員がひとつになり、楽しいひと時となりました。

